

東京国立近代美術館は、コレクションによる小企画「コラージュ切断と再構築による創造」展を開催しますので、お知らせいたします。

コラージュ - 切断と再構築による創造



クルト・シュヴィッターズ (E. +E. シュヴィッターズより) 1947年 コラージュ・紙

Collage: Creation by Severance and Reconstruction

東京国立近代美術館 本館2F ギャラリー4
2009年1月20日[火] - 3月8日[日]

プレス用イメージ・取材、展覧会内容など報道関係のお問合せ先: ギャラリー4担当係

TEL: 03-3214-2561(代) / FAX: 03-3214-2576

e-mail: pr-f@momat.go.jp

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

展覧会概要

タイトル	コラージュ - 切断と再構築による創造
会期	2009年1月20日[火] - 3月8日[日]
開館時間	午前10時から午後5時まで 金曜日は午後8時まで(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 ギャラリー4(2F) 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3 - 1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	一般420(210)円 大学生130(70)円 高校生以下および18歳未満、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、65歳以上および障害者手帳をお持ちの方(要提示)とその付添者(1名)は無料。()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 本展の観覧料で、当日に限り、所蔵作品展「近代日本の美術」(特別公開「横山大観《生々流転》」を含む)もご観覧いただくことができます。
無料観覧日	2月1日(日)、3月1日(日)('コラージュ'展および所蔵作品展「近代日本の美術」のみ)
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.momat.go.jp (ホームページ)
イベント	キュレーター・トーク(都築(つづき)千重子 本展企画者・主任研究員) 1月23日[金] 18:00 ~ / 2月8日[日] 11:00 ~ 申込不要・参加無料(要観覧料)
同時開催	「高梨豊 光のフィールドノート」展 企画展ギャラリー(1F) 観覧料: 一般850(600)円、大学生450(250)円。 高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(要提示)とその付添者(1名)は無料。()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 「高梨豊」展観覧券で当日に限り、「コラージュ」展および所蔵作品展「近代日本の美術」をご観覧いただけます。 所蔵作品展「近代日本の美術」 所蔵品ギャラリー(4F - 2F; 1F特設ギャラリー) 観覧料: 一般420(210)円 大学生130(70)円 高校生以下および18歳未満、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、65歳以上および障害者手帳をお持ちの方(要提示)とその付添者(1名)は無料 ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 特別公開 横山大観《生々流転》(重要文化財) (1F特設ギャラリー)を含みます。長大な40mに及ぶ画卷を一挙大公開! (別プレスリリースを用意しております。お申し付けください。)

展覧会の構成と見どころ

今日、デジタル機器の発達も手伝って、言葉やイメージを切り取ったり、貼り付けたり、合成したりすることは、私たちの日常で非常に身近なものになってきています。

美術においては、たとえば写真、新聞からとったイメージや文字などを、もとの文脈から切り離して、組み合わせる手法を、フランス語の「coller(糊で貼り付ける)」を語源とする「コラージュ(collage)」という語で呼んでいます。

20世紀に入り、ピカソやシュヴィッターズ、エルンストといった前衛的なアーティストが、この手法を積極的に採り入れます。必ずしも絵筆を握る必要がなく、異なる材質や要素の画面での混在を可能にするコラージュは、「既成概念(たとえば描写技術に支えられた絵画)」や「伝統的な視覚(線遠近法に基づく均質な絵画空間)」に、大きな揺さぶりをかけることになったのです。

このように、イメージを破壊しつつ、新たな創造に結びつけるコラージュの手法や発想は、今日にいたるまで多様で豊かな表現を生み出し続けています。この展覧会は、コラージュが切り拓いたさまざまな展開の一端を、所蔵作品約30点を通して見ていこうとするものです。

意外な出会いが生む不思議なイメージ

ここで取り上げる作品はほとんど、グラフ雑誌の写真、書籍の挿絵、広告など、すでにある印刷物の切り抜きで成り立っています。絵筆や鉛筆で描かれてもおらず、作者は必ずしも「絵がうまい」必要もありません。その代わりに、何をどう切り取るか、各々の素材をどう関係づけるか、結果としてどういうイメージをつくりあげるかなど、作者の発想や作品を組み立てるプロセス、つまり創行自体のもつ意味が、非常に重要になってきています。

各々の素材は輪郭に沿って丁寧に切り取られ、切断面も目立たず、手の痕跡をできるだけ残さないようにしてあり、コラージュは造形面よりも、むしろ個々のイメージのもつ内容(主題)や組み合わせられて生まれるイメージのために用いられています。

もともと担っていた意味を完全には失わないまま、分離されたイメージ同士が意外なところで出会うことで、そこにズレや緊張感が生じ、観る人はとまどい、奇妙に感じたり、不安を抱きます。しかしここに出現する不思議で幻想的な世界は、きっと日常や合理的な世界とは別の世界への扉を開き、私たちの想像力に働きかけてくることでしょう。



岡上淑子《怠惰な恋人》 1952年 コラージュ・紙
東京国立近代美術館蔵

コラージュの素材の多くは、1952年4月までアメリカ軍の施設があった六本木付近の書店で買い求めた、『Life』、『VOGUE』などの外国のグラフ雑誌やファッション雑誌からの切り抜き。湧き起こる物語や空想、夢をかたちにすることに戯れているかのような新鮮な驚きと喜びがあります。

破壊と創造のはざまでー断片からの再構築

二度にわたる世界大戦をはじめ、20世紀は幾度となく、強力で大規模な破壊を経験しました。破壊と断絶は人々を不安に陥れ、既存の価値や枠組みへの不信を抱かせる一方で、別の新しい価値や表現をつくり出す熱意を生み出しました。第一次大戦(1914-18年)後の瓦礫の山から、シュヴィッターズはコラージュを思いつき、第二次大戦(1939-45年)後に、日本画の革新を目指したパンリアル美術協会の画家たち(三上誠、星野真吾、不動茂弥)にとっても、新たな表現を模索する上で、コラージュは重要な手法となりました。

この章でのコラージュは、多様化し拡散する現代社会に似て、断片の集積のようにも見えます。どちらかといえば、貼付された個々の内容よりも、それらがどのように関係づけられるかという造形的側面の方に重点が置かれた作品です。貼付されているものは、ガラクタに近いような断片が多く、紙だけでなく、毛、布、皮、木片、金属にもおよび、多様な質感が導入されています。

一見、機能を失い、意味を剥ぎ取られたような断片ですが、相互に関係づけられることで、新しいかたちや意味を創り出しています。多種多様な材質や内容が貼付されて、触覚をはじめとする人間の感覚や知性に働きかけ、観る人の意識に揺さぶりをかけようとしています。



クルト・シュヴィッターズ (E. + E. シュヴィッターズより) 1947年 コラージュ・紙 東京国立近代美術館蔵 (図版:表紙にも掲載)

シュヴィッターズが貼り付けた素材は、機能や意味を失った断片ばかりです。この作品は最晩年のコラージュに属し、1945年にノルウェーに戻った息子のエルンストとエヴァ夫妻から送られた、封筒の切れ端などの紙くずを主として構成されています。



村山知義 (コンストラクション) 1925年 油彩、紙、木、布、金属、皮 東京国立近代美術館蔵

木片、布、ブリキ、毛髪、そしてグラフ雑誌のグラビアなど、身の周りの多様な素材が持ち込まれて構成され、数字や豚、鳥、へびなどが描かれています。入り組んだ色や形とその連想作用を利用して、画面を複雑化し、内容を豊富にしようと企てられています。



星野眞吾《白い作品・男》1968年 紙本彩色 東京国立近代美術館蔵

身体に糊を塗って紙に押しあて、乾燥する前に岩絵具を振りかけて作る人間拓本、「人拓」の作例のひとつ。
星野は第二次世界大戦直後、最も急進的に日本画変革を目指したグループの一つ、パンリアル美術協会の一員。こうした表現も、日本画・洋画の対立概念を超えて、現代美術としての「膠(にかわ)絵(膠彩画)」の可能性を探る中で生まれました。

コラージュ的発想の展開

さまざまな素材をもとの文脈から切り離し、画面に挿入し、組み合わせ、あるいは合成して、新たなものをつくりだすというコラージュの発想や性質は、現代にいたってさらに幅広く応用されています。もはや糊やはさみも使わずに、実に多様な表現が生み出されているのです。

郭徳俊《クリントンと郭》1993年 シルクスクリーン 東京国立近代美術館蔵

交代するごとに『TIME』誌の表紙を飾るアメリカ合衆国の歴代大統領の顔の下半分に、鏡に映る郭自身の顔を組み合わせ、あたかも切断し合成したかのように見せる、大統領シリーズ。権力の象徴かつ世界中に認知された大統領のイメージと、無力な一個人としての芸術家の肖像をつなぎ合わせ、プラスマイナスゼロにして無意味化をはかり、人間の実在を問いかけます。



FAX送信票

200 年 月 日

To: 東京国立近代美術館 美術課 ギャラリー4担当係行 (FAX : 03-3214-2576)

広報用写真借用申込書

コラージュ - 切断と再構築による創造

2009年1月20日(火) ~ 3月8日(日) 東京国立近代美術館 2Fギャラリー4

下記の条件をよくお読みの上、表の空欄に 印をお付けください。

* 画像データ(JPEG)でお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションを必ずご確認ください。

* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

貴社名 _____ 御依頼者氏名 _____

御住所 〒 _____

TEL: _____ (内線 _____) FAX: _____

E-mail: _____

出版物・放送番組名(含:扱い、コーナー名等) _____

種別:(印をつけてください) TV ラジオ 雑誌 新聞 フリーペーパー ネット媒体
携帯媒体 その他 _____

発行・放送予定日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 ~ _____ 時 _____ 分

		岡上淑子《怠惰な恋人》 1952年 コラージュ・紙 東京国立近代美術館蔵
		クルト・シュヴィッターズ《E. +E. シュヴィッターズより》 1947年 コラージュ・紙 東京国立近代美術館蔵
		村山知義《コンストラクション》 1925年 油彩、紙、木、布、金属、皮 東京国立近代美術館蔵
		星野眞吾《白い作品・男》 1968年 紙本彩色 東京国立近代美術館蔵
		郭徳俊《クリントンと郭》 1993年 シルクスクリーン 東京国立近代美術館蔵

< プレス・イメージ貸出条件 >

1. 写真は、展覧会および美術館紹介の目的のみご使用ください。使用后、画像データは消去してください。
2. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。
3. 写真を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。
4. データを第三者に渡すことは禁じます。
5. 掲載紙(誌)は、1冊、美術課宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。